

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490700109	事業の開始年月日	平成22年8月1日
		指定年月日	平成22年8月1日
法人名	社会福祉法人 愛光会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 みなみ杉田		
所在地	(235-0033) 神奈川県横浜市磯子区杉田3-17-12		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	15 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	6 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年8月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人の要望を取り入れるようにしています。送迎は7:30～19:00の間、利用者のニーズに合わせ随時行っています。急な通いや泊まりにもできるだけ対応しています。食事は、ご飯に十六穀米を使用し、副食も薄味で提供しています。その他、疾病などの理由により食事制限をしている方は家族・スタッフ・看護師等とカンファレンスし個別に対応しています。入浴は機械浴と個浴があり身体状況や希望に合わせて、どちらも入浴可能です。また、一人ずつお湯を入れなおすタイプですので衛生的です。重度の方も受け入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年2月27日	評価機関 評価決定日	平成27年5月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京浜急行線杉田駅から商店街を通り抜け約10分の住宅街の一角にあり、2階の宿泊できる6室の居室は利用者の休憩室にも使われています。敷地内に同法人のグループホームがあり災害対策など協力しています。

<優れている点>

常勤のケアマネジャーは毎月1回利用者の自宅を訪問し本人や家族の要望や意向を把握しニーズを確認しています。通いサービスを中心に訪問、泊まりのサービスを柔軟に組み合わせて自宅で安心して暮らせるようプログラムを組んでいます。施設では年間行事計画を作成し毎月輪番制で職員が誕生会や花見、端午の節句、敬老の会、職員によるギター・タンブリンの演奏など企画・運営しています。座ったまま入浴できる機械浴を設置し自宅では入浴が困難な家族に喜ばれています。機械浴は一人毎にお湯を入れ直すタイプで衛生的です。中庭では5～6人がおしゃべりしながら一緒に座れる足湯で楽しみ、リビングのコーナーのフットマッサージ機で足の疲れを癒しています。ソーラン節などに合わせ座って出来る手話を取り入れリハビリに役立つ効果とともに手話をする利用者の表情などから職員は新しい気付きを見出しています。

<工夫点>

専門の調理師や事務職員を配置し、介護職員は利用者と少しでも多く会話できるよう介護に専念できています。食事は十六穀米を用意し野菜や魚を中心に高齢者の好みに合わせて提供しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 みなみ杉田
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念である「安心・安全・信頼」を基盤にして、さらに「その人らしさ」を大切にしたいケアを行う事を目指しています。また、入職時に理念について口頭で説明するようにし、玄関にも掲示しています。	住み慣れた地域での生活を継続できるようその人らしさを大切に一人ひとりに合わせて日々支援しています。事務所に掲示された理念である「安心・安全・信頼」を意識して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩へ出かける事が多く、近隣の方に庭の花をわけていただいています。また公園でお花見や紅葉狩りをする際は自治会管理の集会所を借りています。行事の際には地域の方々がボランティアでお手伝いに来られることもあります。	利用者も近隣の人が多く地域とのつながりもあり散歩時に声を掛け合い野菜などを貰ったり日常的に支援しています。自治会の祭に参加したり、花見の時に自治会館を休憩所代わりに利用しています。地域のボランティアも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	小規模多機能型居宅介護事業所を地域の方々に知ってもらうため、パンフレットの配布や掲示を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施しています。自治会・包括職員・家族・利用者・地域住民の方々に参加していただいています。施設側の活動状況報告と・地域のお知らせを行っています。家族等からの要望や質問も受け付けています。	運営推進会議は年6回開催しケアプラザの職員や自治会長、地域住民、家族、利用者が参加して活動状況や今後の取組みなど報告しています。参加者から地域の行事やボランティアの受け入れ、小規模多機能施設のサービスの理解などについて話し合っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の受け入れ、困難事例時の対応方法の相談、認定調査員との連絡・調整・立ち合いを行っています。	独居者の緊急受入れや生活保護者の受け入れなどの報告や調整のため、区の高齢支援課やケアプラザの職員と常に連絡相談し協力関係を築いています。磯子地区や洋光台地区主催の研修会の実行委員を担当するなど積極的に参加し協力しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、法人としての規定が定められており、職員もいつでも閲覧できるようになっています。	身体拘束のマニュアルや管理者が実行委員の「洋光台高齢者虐待防止ネットワーク連絡会」の研修会などにより周知徹底し、言葉の弊害についても職員間で配慮しています。自宅での利用者と家族の間での行為についても家族と話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人で、虐待に関する事項が定められています。職員はいつでも閲覧できるようになっています。また日常的な管理者と職員間の話し合いの中で虐待が起こらないように意識を高め、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要なご家族に対して機会をみて制度の説明や連絡先、手続きの助言を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、小規模多機能居宅介護事業所の特色や他施設との違い、日常生活で関わってくる細かな説明を行っています。また、不明な点がないか確認を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に意見・苦情の連絡先を記載しています。管理者・職員は、何か意見がないか日ごろから注意を払い送迎時に声かけを行っています。また、家族会での意見聴取も行っています。	日々の送迎時の声掛けや挨拶などから自宅での様子を確認したり、家族との連絡帳や毎月の「おたより」で身体面や精神面の状況を共有しています。毎月ケアマネジャーが利用者の家庭を訪問し要望や意向など意見交換しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日ごろからコミュニケーションをよくとり、職員から話を聞くように心がけています。また、月1回のスタッフ会議の中で職員の意見や提案	管理者は日常的に職員一人ひとりと話し合う機会に努めています。スタッフ会議を毎月開催し日々のサービスや運営について意見や要望など意見交換しています。職員の努力や実績を評価する業績評価制度を導入し、職員のモチベーションを高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、法人独自の業績評価制度を実施し、管理者等より情報収集を行い、職場環境・条件の設備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には積極的に参加し、参加した際には、レポートを作成し職員間で共有できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人本部や包括のデイサービスを見学しています。また、新規で開所する施設の職員研修を受け入れています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用決定前に、本人との面接を行っています。その際には本人と話す機会を多く持つようにしています。また当施設見学や1日体験もすすめています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	相談の段階から見学に来ていただいたり、自宅を訪問し面接を行ったりと数回話を聞く機会を設け、困っている状況などを把握しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状態（病歴等）の確認、家族の求めているサービスの確認、本人が何を望んでいるかを把握してから、話を進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者さんの生活歴などを把握し、特技などを活かせるようなレクリエーションを考えています		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は、家族に対し送迎時に、日常の様子を細かく話すことで、相談や助言を互いに行い、本人をともに支えあっています。また、毎日連絡帳を記入し、情報提供を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方が訪ねてきた際には、ゆっくり過ごすことができるように、場所を提供しています。	利用者は近隣の方が多く家族や知人の訪問の対応を大切にしています。入居時に本人や家族から懐かしい場所などを把握し支援しています。要望の多いものをレクリエーションや行事、ドライブに取り入れて思い出が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員は、利用者同士の関係を把握しており、散歩やレクリエーションの際には、お互いが自然と馴染めるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も電話連絡を行い、状況を聞いたり、入居先の施設に訪問の際には顔を出したりしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩やレクリエーションの参加など利用者さんのその時の要望を自分自身で伝えられるように声かけを行っています。	外出時や日々繰り返す会話から「何をしたいか」「どう暮らしたいか」など聞き出すよう努めています。その人らしさを大切に本人が「出来る事」「わかる事」など介護計画に取り入れ利用者に役割のある生活ができるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	契約時だけではなく、本人の状況に応じて家族から話を聞いたりして、本人の生活歴などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子やバイタルチェック・排泄・水分量などを業務日誌・個人記録に記入し、本人の生活状況を把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族・職員・関係者などから情報の収集を行っています。	毎月業務日誌や個人記録によりモニタリングを行い、本人や家族の要望、医師や看護師の助言などを確認し職員全員で話し合いケアプランを見直ししています。ケアマネ会議では通い・訪問・宿泊サービスを柔軟に組み合わせ支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を業務日誌や個人記録に記入し、情報を共有しながらスタッフ会議などで話し合い、実践できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の病院への付き添いが困難な場合には、職員が代行して付き添うなど柔軟に対応しています。また、家族が入院するなどの緊急時には泊まりサービスを導入し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	消防署の協力により、消防訓練を行っています。また、デイサービスに来て下さるボランティアの方々の歌や踊りを一緒に見学する機会があります。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	初回利用後の受診に同行させていただき、本人・家族と一緒に主治医の話を聞いています	利用者には契約前に健康診断を受けて貰い、情報の共有をしています。かかりつけ医への通院は家族が同行し、不可能な時は職員が同行しています。事業所には看護職員が在籍し、ケアプランの助言や平行棒での歩行訓練の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	通いサービス時には常時職場内の看護師と状況を確認し共有しています。また、在宅時には主治医や訪問看護師と連絡がとれるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはお見舞いに行き、家族はもちろんのこと、病院のケースワーカーとも退院に向けての話し合いや情報交換をスムーズにできる対応をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	送迎時やカンファレンスの際に重度化した場合の家族の考え方などを聞き、必要に応じて受診に同行し主治医からのアドバイスなどを共有しています。	ターミナルケアについての家族の意向や考え方を聞きながら、事業所としてできることを説明しています。自宅での家族の介護力や独居者などの周辺状況について主治医の意見を聞き、1日でも長く在宅で過ごせるよう柔軟な支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	機会があるごとに看護師による研修を実施したり、スタッフ会議で話し合いをしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を行っています。利用者さんでもできる限り参加していただき避難経路を確認しています。地域運営推進会議にて、協力体制について話合っています。	マニュアルを作成し利用者・地域住民・消防署員の参加を得て、年2回の避難訓練を実施しています。消防署員の指導のもと、避難経路の確認・通報訓練・消火器の使い方について職員間で共有しています。飲料水は5日分の備蓄があります。	様々な災害を想定しての避難訓練や、地域住民・隣接するグループホームとの協力体制を築いていくことが期待されます。災害発生時に備えた非常食や備品の点検が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、言葉使いや声かけのタイミングに気をつけています。個人情報の取り扱いにも十分気を付けています。	人生の大先輩として敬意を払い、人格を尊重した言葉使いや介護を心掛けています。誘導の際も人前であからさまな介護をしたり、声かけをしないよう配慮しています。個人情報のファイルは事務室の施錠できる書庫に保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り多くの声かけを行い、本人の思いや希望を表せるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は必ず本人に確認を行ってから行動するように支援しています。たとえば、散歩に行くかどうか、お風呂に入るかどうか。など尋ねて本人のペースを理解しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洗髪後のブラシは好きなブラシを使って、自分で整えてもらっています。美容液も数種類用意しています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	年に3～4回バイキング形式の食事にし、1人1人が好きな量だけ食べれるようにしています。また誕生日会には誕生者の希望に合った食事やおやつなどを用意しています。	職員が介護に集中できるよう、専門の調理師が食事を提供しています。クリスマスなどの行事食はバイキング形式とし、利用者の楽しみの一つになっています。職員も同じテーブルを囲み会話を楽しみながらさりげない介護に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	月1回の体重測定、日々の水分量のチェック、食事量のチェックを行う事により、利用者の状態を把握し支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には口腔内に食べ残しがないように水分補給を促しています。また、清潔保持の為、歯磨きや入れ歯洗浄などを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の記録などを参考にし、1人1人の合図に気づき、トイレでの排泄ができるように見守り・声かけを行っています。	排泄の記録を参考に、個々のリズムや表情・しぐさを把握して、トイレでの排泄支援を行っています。自尊心に配慮し、さりげなくトイレに誘導しています。泊まりの際も、できる限りトイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取には十分注意を行っています。また、食事やおやつにも工夫をし、便秘の予防に取り組んでいます。具体的には繊維を多く含んだ十六穀米や観点をつかったおやつなどを提供しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	機械浴と個浴があり、利用者さんの希望を取り入れ、入浴して漏れっていません。個浴では入浴剤を入れ温泉気分です。ゆっくりできるように支援しています。	個浴と機械浴があり、利用者の希望や身体状態に応じて週3回程度入浴を楽しんでいます。利用者は泡風呂の機械浴を好んで利用し、歌を歌ったりリラクセスできるよう努めています。湯はその都度入れ替え、衛生面に配慮しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	「疲れてない?」「大丈夫?」などと常に声かけを行い、本人の状況を把握し休息しやすい環境を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者さんが服用している薬については、薬のファイルに処方箋がはさんであり、職員はいつでも閲覧できるようになっています。服薬支援については必ず一人ずつ服薬介助を行い、確認したうえで行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。	一日の中で本人に張り合いや喜びができるように、職員は声かけに配慮し、「ありがとう」や「〇〇さんがいてくれて助かります」などの会話をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のいい日には近くの公園まで散歩をしたり、季節ごとにお花見や紅葉狩りなど、地域のボランティアの方にも参加してもらい支援を行っています。	天気のいい日は近くの公園や幼稚園に散歩に出掛けています。花見や紅葉狩りなど季節の行事には地域住民のボランティアの協力を得ています。個別外出として利用者の要望で近くのスーパーへ買い物に同行支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方に関しては、家族の了解を得て、一定額を本人が所持しています。また、本人の必需品を購入した際には支払いを行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	通いや泊まりサービスを使用時に家族や知人への連絡を希望される方には、必要に応じて対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に利用者への声かけを心がけ、テレビや音楽の音、照明などその時々に合わせて調整しています。	リビングには音楽が静かに流れ、利用者はぬり絵や会話を楽しみながら、思い思いのゆったりした時間を過ごしています。壁には利用者が折り紙で作った雛人形や書道の作品、生け花を飾り、季節を感じられるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	静かに休みたいときは2階の居室を利用してもらったり、ソファでくつろいでもらえるよう声かけをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアでは、自由に席を移動してもらったり、泊まり利用で希望される方は日ごろ使用している枕などの持ち込みを許可しています。	宿泊室はベッド・タンス・エアコンが備え付けてあり、利用者は使い慣れた枕やラジオを持ち込んでいます。利用者の好みや身体の状態に合った個室を用意し、繰り返しの利用者にはほぼ決まった部屋で居心地良く過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室やトイレに手すりを設置しています。また、玄関には椅子が設置されており座って靴が履けるようになっています。		

平成26年度

目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護事業所

作成日： 平成27年5月1日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	法人としての理念の共有は行っているが、小規模多機能事業所みなみ杉田としての理念を話し合う機会が少ない。	理念の具体化に向けて、職員の研修の機会を増やす。	外部研修への参加を充実し、職場内でも共有できる機会を設けていく。	12ヶ月
2	13	災害時などに備えて、地域との連携が充分でない。	地域との連携を深める。	地域住民との交流を深めるため、協力体制を見直す。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月